あっ！先生だ
疎開の18人お礼訪問
34年ぶりに旧友と対面

戦争中、東京から葛塚へ集団疎開した当時の学童十七人と先生が、三十四年ぶりに市を訪れ、当時の地元の好意に対して感謝状や記念品を贈ったり、学友と旧交を温めたりしました。

この人たちは、東京都深川区（現在江東区）元加賀国民学校の人たちです。

五月四日、新潟駅に集合したこの人たちは、市のマイクロバスで市役所を訪れ、出迎えた旧師や旧友と涙の対面をしました。その後講堂で江東区長のメッセージと元加賀小学校長からの感謝状、自分たちで準備した記念品を市長に手渡しました。

葛塚小学校を訪れては、やはり感謝状と記念品を贈り、校舎を一巡し、当時の教室では、自分の席にすわり、昔を思い出しては、声をつまらせていました。

また、宿舎であった常盤町の北幸と中常楼も訪れましたが、翌五日には、話を聞いて集った旧師や学友百人ほどと交歓会を開き、懐かしい良い思い出を残して、それぞれ帰りました。

第二次大戦が、いよいよ激しくなった昭和十九年六月、本土空襲から学童を守るため政府は関東や関西など主要都市の学童を強制的に疎開させる措置を講じました。

十九年八月、当時の葛塚町へも、元加賀国民学校の三年生から六年生まで百人余りが、親の手元を離れて集団で疎開し、男子は北幸、女子は中常楼を宿舎として葛塚国民学校で学び、二十一年の三月まで苦しい生活を送りました。

当時は、国をあげての食糧難で、三度の食事も満足に取れない時代でした。それに加えて十九年から二十年にかけての豪雪で、ゴム長や防寒具の満足でない都会の子供たちにとっては、過酷な生活でした。しかも、都会と田舎の子供同士の間には、つらい思いも多かったと想像されます。

二十年の春、卒業して東京へ帰り、空襲で亡くなった人や東京に残った家族が全部亡くなった人もあるそうです。

この人たちのうち、連絡のとれる人で「葛塚会」を結成して、苦労を共にした仲間と励まし合っていましたが、当時お世話になった人たちにお礼をと、三十四年ぶりの訪問となったわけです。

▷あっ！先生……。三十四年ぶりの対面（市役所前で）

▷江東区長からのメッセージを読む村田先生（市役所講堂で）

訪れた人迎えた人のひとこと

▽児童の引率教師であった村田長治さん（鎌倉市）

「あの苦しかった時代に、ほんとうにありがとうございました。

宿舎で勉強することではなく、学校が受け入れてくださったので、こちらに友だちが多くでき、当時の児童は第二の故郷と思っています」

▽疎開して来て、当時六年生だった鈴木雄英さん（神奈川県海老名市）

「もっと早くお礼にあがるべきでしたが、連絡のとれない人も多く、ほんとうにすみませんでした」

▽宿舎を提供した新井田豊三さん（常盤町）

「人手が不足で、人様の子供さんをあずかるのはお断りしたんですが……

食糧を調達するのに一番困りました。病気の子供が出て明をさがすのに、農家をかけまわったりもしました。

ほんとうによく来てくれました。兵隊に行った子供が帰って来たときの気持とは、こんなもんなのでしょうか」

▽当時、六年生の担任だった神田里さん（松ノ町）

「ほんとうによく来てくれました。

当時は、あの人たちにあまりよくしてやれなかったのが心残りでしたが、これで心のわだかまりみたいなものが解けたようです。

皆さんの温かい歓迎で、良い思い出を持って帰られたようです」

▽同級生を迎えた長谷川眞芳さん（上大口）

「来るという話を聞いて会うのが楽しみでした。市役所の前で出迎えましたが、顔はすぐわかりました。

東京生まれで田舎を持たない人が二人来まして、今度は葛塚を田舎にして家族をつれて来たいと言っていました。私たちも同級会のときは通知することにしました。

喜んで帰ってもらってほんとうにうれしいです」

▷「あっ、あの教室だ」「昔のままだ」と、（葛塚小で）

△市役所に保存されていた名簿

△当時の自分の席にすわって、思いは34年前に、（葛塚小で）

若者グループに全国農業新聞賞

全国農業新聞社主催の「若い農業者グループ活動コンクール」で、木崎農協営農研究会（代表渡辺良男さん）が入賞しました。

同研究会は、若い農業後継者で組織され、営農についての研究を主にしていますが、地域に根ざした将来性が楽しみなグループです。

交通災害共済の加入状況

「一日一円の会費でたすけあい」をキャッチフレーズに加入を呼びかけている交通災害共済は、四月三十日現在で二万六千四百七十八人が加入しました。

昨年同期に比べて千六百九十人増加し、加入率は六三・九％になりました。なお昨年同期の加入率は、六〇・八％でした。

加入率は農村部で高く、新しい住宅地で低い傾向が見られます。

係では、今年度加入率七〇％を目標に、今後も加入を呼びかけることにしました。

工事中です

（工事名、契約金額、請負者完成予定月日、施工地の順。契約金額百万円以上。）

○中嘉山公園土留工事、百二十九万二千円、上杉組、六月四日、嘉山四丁目

○豊栄南運動公園整備工事四百九十万円、上杉組、六月四日、嘉山

○町浦川下水路ポンプ室ゲート築造工事、一千三百六十五万円、㈱品田組、六月二十九日、上土地亀

校章めぐり
(4)葛塚小学校

葛塚小学校（西倉義雄校長　児童数五百六十九人、職員二十六人）

葛塚小学校は明治六年一月十三日新潟県第二十二大区小八区葛塚校として、下町の日蓮宗儀善庵（現在の本立寺）で発足。昭和十三年十二月嘉山小学校を統合し、現在校を新設。昭和五十一年四月一日葛塚東小学校を分離する。

校章の由来

由来については定かでないが、校章には二枚の葛の葉をあしらい、その葉は三種の神器の一つである八咫鏡を形どり、中心に葛の字を図案化している。つまり、葛塚小学校の子どもは葛の字を表し、葛の葉のように互いにむつみ、助け合い、しかも葛のように鏡のように清い心でありたいということである。